

## 1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

## 2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

## 3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

## 4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

## 5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

# 今週の聖書

マタイ 8:5 イエスがカペナウムに入られると、ひとりの百人隊長がみもとに来て、懇願して、

8:6 言った。「主よ。私のしもべが中風で、家に寝ていて、ひどく苦しんでいます。」

8:7 イエスは彼に言われた。「行って、直してあげよう。」

8:8 しかし、百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばを下さい。そうすれば、私のしもべは直ります。」

8:9 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私自身の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ』と言えば、そのとおりにいたします。」

8:10 イエスは、これを聞いて驚かれ、ついて来た人たちにこう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことがありません。」

8:11 あなたがたに言いますが、たくさんの人が東からも西からも来て、天の御国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに食卓に着きます。

8:12 しかし、御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。」

8:13 それから、イエスは百人隊長に言われた。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。

Mat 8:5 Now when Jesus had entered Capernaum, a centurion came to Him, pleading with Him,

8:6 saying, "Lord, my servant is lying at home paralyzed, dreadfully tormented."

8:7 And Jesus said to him, "I will come and heal him."

8:8 The centurion answered and said, "Lord, I am not worthy that You should come under my roof. But only speak a word, and my servant will be healed."

8:9 "For I also am a man under authority, having soldiers under me. And I say to this one, 'Go,' and he goes; and to another, 'Come,' and he comes; and to my servant, 'Do this,' and he does it."

8:10 When Jesus heard it, He marveled, and said to those who followed, "Assuredly, I say to you, I have not found such great faith, not even in Israel!"

8:11 "And I say to you that many will come from east and west, and sit down with Abraham, Isaac, and Jacob in the kingdom of heaven."

8:12 "But the sons of the kingdom will be cast out into outer darkness. There will be weeping and gnashing of teeth."

8:13 Then Jesus said to the centurion, "Go your way; and as you have believed, so let it be done for you." And his servant was healed that same hour.

## 「信じた通りになる。」マタイ8章5～13節

挨拶の締めくくりに「お祈り申し上げます。」と儀礼的に書かれていることがあります。その人が一体どのような宗教をもつて、どんな神に祈っているのかと考えます。実際には、祈っていないのだと思います。或は、書いた時に、少し信仰心をもった程度かもしれない。日本人の宗教心というものはそんな程度ですが、クリスチャンが「祈っています。」と語ったら、本当に祈らなければ偽りを言うことになりません。しかし、実際には多くのクリスチャンがこの世の風潮に染まっております。そのような安易な言葉遣いは、神に嫌われます。

問題があったり、不幸があったり、病気や手術の時に、「祈ってください。」と言われることがあります。その本人が神に期待するよりもむしろ医療に期待したり、解決を期待していかないようなことがあります。私自身は、そのように頼まれば祈りますが、本人が神に依存していません。私自身は、そのように頼まれば祈りますが、本人が神に依存していません。私自身は、そのように頼まれば祈りますが、本人が神に依存していません。私自身は、そのように頼まれば祈りますが、本人が神に依存していません。

「美辞麗句」とは、「巧みに美しく飾った言葉。うわべだけ飾った内容の乏しい、また真実味のない言葉の意。」とありますが、神の名を借りた虚言は神が非常に嫌うものです。軽々しく信仰を論じても、信仰者ぶつても、自らの言葉の通りに生きていなければ、「罪に定められるのも、あなたのことばによるのです。」(12・37)。神に喜ばれる信仰者とは、そのような自らの言葉や神への態度に非常に繊細です。

今日の聖句にある百人隊長は、ガリラヤ地方の王であるヘロデ・アンティパスにつくローマの軍人であり、異邦人を毛嫌いするユダヤ人からは嫌われていました。使徒10章にカイザリアにいたコルネリオという百人隊長が「敬虔な人で、家族全員と共に神を恐れ、民に多くの施しをし。いつも神に祈りをささげていた。」とありますが、同じ人かもしれない。ともかく、異邦人なのに、ユダヤ人よりも敬虔に神を信じていたのです。当時の宗教指導者は言葉巧みな偽善者で、イエスは、「あなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義に優っていないければ、あなたがたは決して天の御国にいきません。」(マタイ5・20)と批判しました。マタイ6章には、「人に見せる為の善行」(1)、人に見せてもらおうための「施し」(2-4)、「人に見せる祈り」(5-8)、「人に見せる断食」(16-18)、「蓄財」(19-20)、などをイエスは、偽の信仰者として糾弾しています。神が求めるのは、真摯な信仰者です。

「まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」(マタイ6・33)こそ、信仰の奥義です。

この百人隊長は、「私のしもべが中風のために家で寝込んでいます。ひどく苦しんでいます。」(9)とイエス様に懇願します。百人隊長と言え、権威も力も富もある指導者ですが、イエス様のところにわざわざ出向いて膝まづくのです。イエス様が、彼の家に「行って治そう。」と言われると、ユダヤ人が異邦人の家に行くことを穢れとして忌避することを知っている百人隊長は、「ただ、おことばを下さい。そうすれば、私のしもべは癒されます。」と強い信仰を示すのです。

彼は、神の権威を信じていたのです。軍隊では、彼の言葉の通りに部下は動きます。ですから、イエス様が真実の神であることを信じており、天地を支配する神ですから、わざわざ家に来られなくても、イエス様の言葉さえいただければ、癒しの業が起ることを信じたのです。

私自身、祈りによって多くの癒しの業をしていただきましたが、すべて真剣であり、21日間の断食の祈りもありました。「祈っている。」といても、続けて一時間も自分の癒しの為に祈ることのできない人がいて、その代わりに病院には何時間も掛けて通います。良子師の大腸がんは、手術もしましたが、栄養療法によってコラーゲンリングができており、また多くの祈りをしました。私自身も、脂肪肝となり、不整脈を起しました。薬によらず治しています。この世の業をしないわけではありませんが、それ以上に神に掛けることが大事だと心から夫婦共に信じております。

信仰を強調し、無理に従わせようとする、不信者は激しい反撃をします。イエス様でさえ、殺されました。しかし、信仰者であるとうぬぼれても、実際には信じていない人が多いのです。私は什一献金をする人の経済的祝福を祈っていますが、確かに、彼らの収入は増えています。今年、私の献金額を超えた人が二人いました。まだ、家内には敵いませんが、「十分の一を」といって、宝物蔵に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ。わたしが、あなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福を注ぐかどうかを試してみよ。」(マラキ3・10)とあります。人の目を気にしてではなく、神を崇め感謝して什一献金をする人は、神がその名に掛けて祝福して下さるのです。

献身的に奉仕をしたら、間違はなく神の祝福を受けます。心を注いで祈ったら、必ず叶えられます。きちんと什一献金をしたら、豊かな者となります。「あなたの信じたとおりになるように。」